

崔書勉先生と私『崔先生のこと』

嶋本 操

崔先生とはお話をする機会も少ない私は、感想をお書きすることしかできませんが、お許しただけなら幸いです。

私にとって崔先生は「大きい」方という印象です。私は二〇〇六年まで、故シスターブリジッド・キオと同じところに住んでいましたので、時々崔先生をお見かけしていました。崔先生は、シスターブリジッドがお願いすると、どんな時でも、どんな場所からでも飛んで来られて彼女を助けてくださっていました。今思いますが、こんな偉い先生がまるで当たり前かのように、お国に帰っておられる時にさえ韓国からでも、飛んできてくださったのです。このことは先生が、特別にお心の広い、情に篤い方だということの表れだと思います。私はこのことから、韓国の方々の感恩の心は特別なものに違いないと思うようになりました。そのなかでも崔先生は特に優れてそうでいらつしやるに違いないと思います。その目立たない静かなさり方から、先生の深い人生哲学やご経験の豊かさ、お人柄の奥行、ものの見方の広さ、人間と真理を愛されるお心などが伝わってきます。そうした体験から私は崔先生が器の大きい特別な方だと尊敬申し上げるようになりました。

その例のいくつかをお話します。今年の冬、「東京―故郷の家」の開所式にお招きいただいた時のことです。崔先生はすでに来場され、席に着いておられました。崔先生のご友人の一人と私のご挨拶のため先生に近づく、非常に喜んで席を立て別室までご案内下さり、お茶をご手配くださいました。そして沢山の写真を一緒に撮って下さり、「共に」在る喜びを分かち合ってくださいました。祝別の祈りで始まる開所式が始まりました。その間、私は隅々まで高齢者の方々へのご配慮が感じられるこの「故郷の家」に注がれた多くの方々の働きと愛を思いました。企画実行に長い年月を重ねられたに違いないご関係の方々のご苦勞を思いますと、特に貢献したわけでない私などにもこのような手厚いお迎えを頂くことは望外なことでした。日本に移住しご苦勞を積まれた韓国の方々のことを崔先生は覚えておられ、且つ私たち日本人の心も大切に下さり、両国が仲良

く平和に共存するよう祈っておられるのを感じました。私は握手して下さったあの大きい厚い掌のような先生の人間としての温かさを思い出し、真の平和と友好とは何かを問いかけられております。

今から一〇年ほど前に六本木のオズインターナショナルにお招き頂いたときのことも思い出します。そこで、故寺田佳子さまはじめ、お集まりになられた各界のリーダー方が、崔先生に、親に対するかのように礼儀正しい、敬愛の情あふれる接し方をしておられるのを目の当たりにいたしました。「崔書勉先生と私」という前回の出版物に崔先生を囲む会の皆様がお書きになったものを読ませていただき、私の印象が的外れていないことを知りました。日本が韓国を侵略し、不幸な時代を作った歴史の史料を深く研究され、日本でもまた、そのご研究を続けられました。また日本人のもの見方などにも通暁され、両国のことを学問的に深くご自分の中に受肉しておられることを知りました。ですから先生がお話になると、事実を正確に把握しておられ、物事の真実を語られるのがわかります。韓国についても日本についても両方の国の真実を語られ、それでいて両国民に対する深い敬意と愛情が溢れているのです。こんなに正直な話し方をされるのに、人が傷つかないのはおどろきです。それは崔先生の神への深い信仰と人間への愛に支えられた生き方に基づいているからに違いないと感じました。それはお会いするときの温かい面差しにも溢れていて、お会いする度にその思いはますます深くなります。

金山元韓国大使の深い願いであった韓国に骨を埋めるといふ遺言を大切にされ、ついにそれを実現されました。それは決して簡単な手続きだけでできることではなく、大事業だったことと想像されます。先生のお人柄の大きさと誠実さを物語るエピソードだと思います。

このように長年にわたり両国を真実に基づく友情へと呼びかけ続けておられる崔先生は、私たちに大切なメッセージを伝えて下さっていると思います。即ち「事実を客観的に把握すること」「それについて真実に語ること」「そして「どんな状況でも相手に神様の似姿を見出し、敬愛と信頼を以って人間同士として関わること」ではないかと思えます。崔先生という偉大な方を頂いたことへの深い感謝のうちに、先生の後に続く恵を祈りたいと思えます。

